

ねずみ年

使用者委員 上野 総一郎

一巡り前の子年の秋、平成 20 年 9 月 15 日のリーマンブラザーズ破綻を契機に世界的な金融危機が起こり、直前 14,489 円であった日経平均株価はバブル経済崩壊以後の最安値となる 7,055 円まで、 $\Delta 51.3\%$ も下落しました。

日本に強烈なデフレの波が押し寄せ、当時自動車販売会社に居りました私は、毎月の月次決算書を暗澹たる気分で見つめている日々を過ごしておりました。

この消費の消滅は翌春以降のエコカー補助金・家電エコポイント・地域振興券等の大規模の景気刺激策が動き出すまで続き、夏の総選挙では政権交代へと至りました。

さて令和 2 年の子年は、全世界的なコロナ禍に陥り、4 月 7 日から 5 月 25 日まで緊急事態宣言の発動が為され人の移動が止まりましたが、株価は 2 月中旬の 23,861 円から 16,553 円の $\Delta 30.6\%$ の下落に留まり、その後は漸次上昇に移り直近 26,500 円を超え 29 年振りの高値を付けています。

この間、出張・会食もなく、ウェブ会議を繰り返すなか、何か足下の定まらぬ浮遊感を覚えながら過ごして来ました。

10 月 26 日、菅首相が所信表明において、2050 年のカーボンニュートラル社会実現を目指すことを述べられました。果たして次の子年はどうなっていることでしょうか。より良い働き方、より良い会社にして行くために、何をして行こうかと、植木鉢の冬支度をしながら思います。